

林原美術館NEWS

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

vol.37

令和8年度

厩図屏風

うまやずびょうぶ

一般財団法人 林原美術館館長 谷一尚

本年は丙午（へい・ご）で、火の兄（陽）「ひのえ、い
わゆる六十年に一度の「ひのえうま」の年。六十年前の
昭和四十一（一九六六）年は、日本の出生数が統計史
上最低を記録しました。なんと二十五万人もの赤ちゃん
が出産調整などで、前後の年に振り分けられたのですが、
原因となったのは勿論、迷信です。高度経済成長の真っ
只中、二つのベビーブームの間にあって、おばあちゃ
んとなっていた六十年前の明治三十九（一九〇六）
年生まれの世代が、この迷信で苦勞したという現
実が大きな出生減をもたらしたのです。

「ひのえうま」は元々古代中国に起源のある陰
陽五行説に由来します。しかし他の東アジア社会
には、日本のように顕著な迷信はありません。実
はこの迷信は江戸期に言われ始めたのですが、慶
長十一（一六〇六）年には全く見出されず、寛
文六（一六六六）年から、徐々に形をなすようにな
ったと考えられています。

この年に何があつたのでしょうか。その始まりは
八百屋お七の生年。天和の大火で焼け出され、出
会った男に恋心を抱き、再び火事になれば再会で
きると目論んで、当時大罪の放火をし、自ら半
鐘を叩き、その咎で火刑になります。これを井原
西鶴が浄瑠璃に仕立てたことから、歌舞伎や文楽
でとりあげられ、有名となったのです。当時、丙
午年には火事に注意という暦法上の占いが流布し
ていました。昭和の大演歌『夜桜お七』もこの逸話によっ
ています。

私の大学での教え子は、昭和のひのえうまより少し若
い第二次ベビーブーマー以降が主流ですが、大学院や社会
人入学で教えた該当者が何名かいます。うち一名は、ご



左隻

右隻

主人とともに海外の大学で勤務
しており、もう一名も、地方の公
立館で学芸員として活躍してお
り、どちらも、ひのえうまなど、
どこ吹く風です。この年生まれは、
競争相手の数が少なく、得をした
幸運な世代ともいわれま
す。まさに「人の行く裏に
道あり花の山」の実践で
あつたのかも知れません。

さて、図版は当館蔵

『厩図屏風』の部分。厩座敷を伴って描かれてお
り、室町・戦国期の古様を示していますが、図上
に賛をした禅僧の没年から、慶長末・元和頃の作
と考えられており、まさに伝説の生まれる寛文の
丙午の六十年前、慶長のそれからしばらくしての
作。馬が勢いよくいななき駆け上がり、蹴り上げ
て何の支障もなかった時代の作です。

当館も本年は、いよいよ改装した東蔵の利用が
始まります。その嚆矢は、三年周期のトリエンナー
レで国際的な芸術コンペティションとなる第一回新
作公募展「掌」の「漆芸」の受賞者展。以後、貸
ギャラリーや講演会場として貸し出しを行います。
どうぞ奮ってご
利用ください。

勢い良く前進する馬に
あやかり、芸術学問文
化が益々大きく伸展す
る年であるよう願って筆
を擱きます。



右隻 第二・三扇部分。



2月にオープンした
ナガセヴィータ・ギャラリー

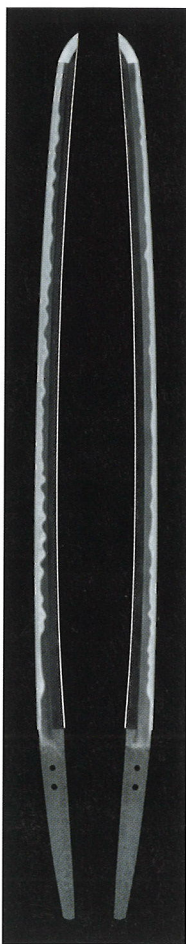
企画展

「サムライたちの物語」

―新収蔵刀剣と名品で紡ぐ時の声と美―

令和8年4月18日(土)～6月14日(日)

新収蔵した刀剣20口を初公開いたします。さらに国宝「太刀 銘 吉房」を筆頭に一文字派(福岡・鎌倉・吉岡・岩戸)などの名刀が勢ぞろい。同時に軍記物語の絵巻や屏風など、サムライの魂が脈打つ書画も展覧いたします。為打ちや伝来品、御番鍛冶、注進物、業物、コンプトンコレクションなど時代を超えて紡がれた、刀剣とサムライたちの様々なドラマを紹介いたします。



刀 銘 備中国三村修理進源朝臣元親 冬広作/永禄十二年八月吉日 室町時代

企画展

「こだわり日本美術」

令和8年6月27日(土)～8月30日(日)

「こだわる」とは物事に強く執着する、という意味です。近年は「特に力を入れる」「想いを込める」といった前向きなニュアンスで使われることがあります。日本の美術には、職人や作品を使う人の想いがこもった美術品がたくさんあります。今回はこうした「こだわり」を切り口に、ジャンルを問わずに館蔵の美術品を楽しみましょう。昨年夏の展覧会に引き続き、本展でもキャプションを「やさしい日本語」にいたします。



色絵宝尽文大皿 江戸時代

企画展

「うるしの風景―日本の名所と花鳥の彩り―」

令和8年9月12日(土)～11月8日(日)

「漆」特有の色味である漆黒に金銀で加飾した蒔絵をはじめ、力強く繊細な彫りの彫漆や虹色に輝く螺鈿など、華やかな装飾が魅力の漆工芸。近年ではその芸術性の高さが世界から注目され、自然素材を用いた日本独自の美意識だけでなく、使うほどに深みと艶が増す経年美を伝える唯一無二の美術品として評価されています。本展では、日本の名所である吉野山や龍田川の蒔絵棚、桜橋、浜松を題材とした硯箱のほか、四季の花や蝶、鳥や獅子などの鳥獣を意匠とする漆の調度品をご紹介します。



桜橋蒔絵料紙箱 江戸時代

企画展

「千支巡礼」

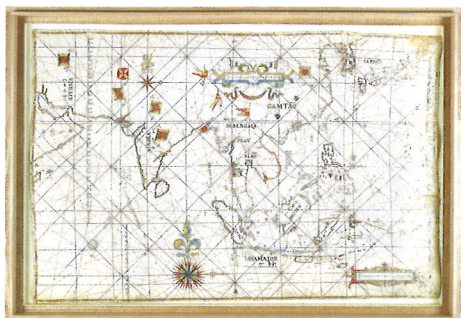
―馬具から羊毛へ―

令和8年11月21日(土)～令和9年1月17日(日)

うま年からひつじ年へ、千支が移ろうこの節目に、「馬」と「羊」が語る日本文化をひもときます。

岡山藩主・池田家に伝わる名品の鞍や鐙、鞭などの馬具をはじめ、「厩図屏風」や賀茂競馬、軍記物語絵巻に描かれた迫力の騎馬表現、さらに島津家伝来の華麗な「千足馬図揃金具」など、馬にまつわる

美の世界を紹介いたします。そして次の千支「羊」では、羊毛から生まれた羅紗製の陣羽織や火事装束・甲冑、さらには羊皮紙に描かれた重要文化財「アジア航海図」など、異国の香り漂う品々を展覧いたします。馬の力強さと羊のあたたかさ――二つの千支が織りなす、時代を超えた美と技の競演をお楽しみいただきます。



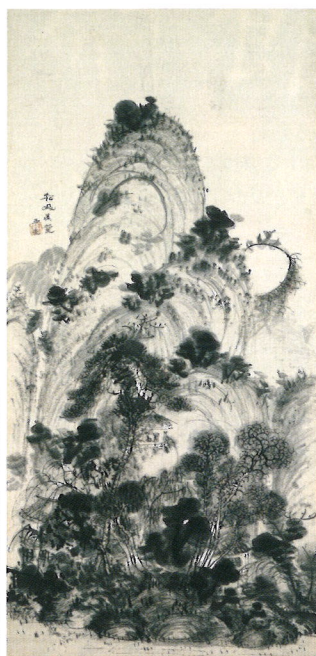
重要文化財 アジア航海図 桃山時代

企画展

「SUMI―美と知の結晶―」

令和9年1月30日(土)～3月28日(日)

中国で発明された墨は七世紀ごろに日本に伝わったとされています。以来、記録を伝えるための筆記具のみならず、微妙に変化する色合いや濃淡が表現できる墨は、水墨画として芸術における一つのジャンルを確立し、書画芸術に欠かせないものとなります。本展では「書く」「描く」「記す」「広がる」をキーワードに、古筆や水墨画、また歴史を記した手紙、さらには硯箱などの文具や鍋島焼(墨はじき)、刀剣の押形など墨にまつわる工芸品をも展覧し、墨の魅力を再発見します。



松風萬樹図 浦上玉堂筆 江戸時代

特別企画

「和菓子とお抹茶の日」

明治21年(1888)創業の老舗の和菓子屋「松涛園」(岡山県倉敷市玉島)にご協力いただき、展覧会にちなんだ特別な和菓子をお抹茶とともに提供いたします。詳細は、展覧会ごとに作成するポスター・チラシなどの広報物にてお知らせします。

日時：①令和8年6月13日(土) 10時～14時

②令和8年8月頃

③令和8年10月頃

④令和9年3月頃

場所：林原美術館内ロビー

定員：各日20名(Webにて要予約)

お茶菓子代：700円(入館料別途)

イベント

お茶会「晩春の茶会」

毎年ご好評をいただいております「お茶会」のご案内です。木々が芽吹き、日に日に緑が濃くなる頃、季節の道具組で皆様をお迎えします。茶室「竹明庵」にて行く春をお楽しみください。

日時：令和8年4月19日(日)

10時10分～16時35分

(お茶席最終受付は15時35分)

亭主：石田宗祥氏(速水流)

場所：林原美術館敷地内 茶室「竹明庵」

定員：60名(要予約)

参加費：2,000円(入館料別途)

書道パフォーマンス

大きな紙に力強く文字を書く書道パフォーマンス。岡山芳泉高校の美術部の皆さんが描いた絵の上に、書道部の皆さんが迫力ある「ことば」を大書します。高校生の瑞々しい感性で表現された作品と、力強く優雅なパフォーマンスをお楽しみいただきます。

日時：令和8年5月3日(日) 11時～

場所：林原美術館内ロビー

出演：岡山県立岡山芳泉高等学校

書道部・美術部

参加費：無料(入館料別途)

歴史ミニトーク

「新収蔵刀剣のなぞ」

企画展「サムライたちの物語」で初公開している新収蔵刀剣は歴史的にとってもおもしろい刀剣です。作品を解説しつつ、為打ち(注文打ち)から戦国武将や大名などのサムライと刀鍛冶の関係をお話いたします。

日時：令和8年5月24日(日)

13時30分～15時

講師：植野哲也(当館主任学芸員)

場所：林原美術館敷地内

ナガセウィータ・ギャラリー

定員：30名(Webにて要予約)

参加費：無料(入館料別途)

琵琶演奏

薩摩琵琶は、薩摩の戦国武将・島津忠良公が藩士の士気を鼓舞する目的で、武家の子弟たちに自作の教訓歌を歌わせたのが起源とされています。例年ご好評をいただいております錦心流薩摩琵琶奏者の木庭轡水氏をお招きし、長寿や繁栄を寿ぐ賀歌として知られる「蓬萊山」のほか、「金剛石」、「木村重成」の三本立てで琵琶曲を披露していただきます。

日時：令和8年7月26日(日)

13時30分～15時

出演：木庭轡水氏(錦心流)

曲目：「蓬萊山」「金剛石」「木村重成」

場所：林原美術館敷地内

ナガセウィータ・ギャラリー

定員：30名(Webにて要予約)

参加費：600円(入館料別途)

特別講演会

企画展「うるしの風景」の関連イベントです。文化財の保存に欠かせない広範な知識と修理経験を有する「選定保存技術(漆工品修理)保持者」の北村繁氏を講師にお招きし、当館の収蔵品で、昨年度に北村氏のもとで修理を終えた「綾杉地獅子牡丹時絵婚禮調度」の内容を中心にお話していただきます。

日時：令和8年9月27日(日)

13時30分～15時

講師：北村繁氏(合同会社北村文化財)

漆工代表社員)

演題：「綾杉地獅子牡丹時絵婚禮調度の修理と彩り豊かな表現方法(仮)」

場所：林原美術館敷地内

ナガセウィータ・ギャラリー

定員：30名(Webにて要予約)

参加費：600円(入館料別途)

コンサート

「秋に聞く珠玉のチェロ名曲」

毎年大変ご好評をいただいております三船文彰氏のチェロコンサート。

※「イベント」の掲載内容は変更になる場合がございます。

今年はピアノリストに荒木渉氏をお招きし、心に響く珠玉のチェロ名曲を披露していただきます。芸術の秋を彩る、特別なひと時をお楽しみください。

日時：令和8年11月7日(土)

開場18時 開演18時30分

出演：チェロ 三船文彰氏

ピアノ 荒木渉氏

場所：林原美術館内特設ステージ

定員：45名(Webにて要予約)

参加費：2,600円(入館料別途)

特別講演会

競馬中継の中で歴史に残る数々の名場面を実況してきた宇野和男氏をお招きし、その実況の裏話や馬と人の関係、競馬や馬具の歴史、現代競馬に残る伝統など、日本における馬文化についてお話をさせていただきます。

日時：令和8年12月6日(日)

13時30分～15時

講師：宇野和男氏(元テレビせとうち)

アナウンサー ラジオNIKKEI

競馬実況担当)

演題：「名実況の舞台裏 アナウンサーが語る日本の馬文化(仮)」

場所：林原美術館敷地内

ナガセウィータ・ギャラリー

定員：30名(Webにて要予約)

参加費：600円(入館料別途)

林原美術館講座

当館所蔵の美術品などを通じ、歴史をより広く深く知っていただく機会として開催する美術館講座。今回は、企画展「SUMI」の展示品の中から古筆、水墨画などの資料についてお話いたします。

日時：令和9年2月21日(日)

13時30分～15時

講師：谷一尚(当館館長)

演題：「墨の魅力」

場所：林原美術館敷地内

ナガセウィータ・ギャラリー

定員：30名(Webにて要予約)

参加費：600円(入館料別途)

施設の利用・貸し出し

当館では、展示室・ロビー・ギャラリー・茶室などを使用し、非日常の中でのコンサート、お茶会、パーティーなどにご利用いただいております。

ご希望の方は、所定の用紙での申し込みが必要となりますので、お気軽にお問い合わせください。

施設利用料（林原美術館本館およびナガセヴィータ・ギャラリー）

対象	補足内容	単位	料金(税込)
展示室	(a) 平日	1日につき	50,000円
	(b) 土・日・祝日(振替休日を含む)	1日につき (午前10時～午後5時)	100,000円
	(c) 展示期間中の閉館時間帯 (午後5時～)		
ロビー	飲食を伴う場合は、1時間につき料金は10,000円となります。	1時間につき	5,000円
庭園・茶室 ギャラリー			
控室	出演者等の控室としてのご使用	1日につき	3,000円
電気・空調	展示室・ロビーを使用する場合	1時間につき	3,000円
ピアノ	本体	1時間につき	5,000円
	調律料	1回につき	35,000円 (実費請求)
附属設備	机、椅子等の備品類		別途必要
時間外管理費	通常の勤務(午前9時30分～午後6時)時間外に使用の場合	1時間につき	5,000円

施設利用料（ナガセヴィータ・ギャラリー）ギャラリーとしての利用

対象	補足内容	単位	料金
一般利用	開館時間は、午前10時～午後5時です。準備のための30分と終了後の片づけの30分を加えた、午前9時30分～午後5時30分は利用可能です。	6日間(火～日曜日)	100,000円
		1日につき	20,000円
		1時間につき	5,000円
学生・教育利用	電気・空調費込み。	1日につき	8,000円
		1時間につき	2,000円
附属設備	机、椅子等の備品類		別途必要

その他(本館、ギャラリー共通)

- ・1時間未満の時間は1時間として計算します。
- ・利用時間が超えた場合は、1時間ごとの料金が加算されます。
- ・利用時間には、準備・片付けなど会場を占有する時間も含まれます。
- ・展示室の展示期間中のご利用は、人数当たりの入館料を頂きます。
- ・展示室内の空調は、美術品優先の設定となります。
- ・作品展示を伴わない物販のみの利用はできません。
- ・展示販売など営利目的の使用は、利用料5割増しとなります。
- ・本規定は、令和8年4月1日現在です。

※友の会会員の方は、各施設の利用料金が2割引となります。

チャリティーコンサートのお知らせ

展示品をテーマに、くらしき作陽大学音楽学部作曲専修卒業生と教員が作曲し演奏発表します。後半はジャズやボサノバでリラックスタイム。演奏とともに星涼しのひとときをいたしましょう。

日時…令和8年8月1日(土)

開場18時 開演18時30分

出演…くらしき作陽大学音楽学部学生・他

米倉孝子・小沼

場所…林原美術館内ロビー

定員…45名(当日定員になり次第締切)

参加費…チャリティー募金(入館料別途)

入館料改定のお知らせ

令和8年度より、林原美術館入館料を左記のとおり改定させていただきます。

一般(高校生含む) 600円、中学生以下無料、団体(20名以上) 500円、障がい者手帳・療育手帳の提示で割引料金適用(介助者1名は無料)。

※特別展の開催時は、別途定めます。

「デジタル常設展」のご紹介

当館ロビー等に設置のタッチパネルで、ご自由にご覧ください。4K超高精細技術により、通常の展示では判別しにくい細部まで驚きの超拡大映像を体験できます。

「平家物語絵巻」(国宝「太刀銘吉房」の他、重文「アジア航海図」・「坤輿万国全図」等、大航海時代の詳細な世界をお楽しみください。また、当館を代表する美術品を掲載した図録「林原美術館名品選」の全230件余りに及ぶ画像も常時ご覧いただけます。(※貸館期間 イベント開催時は除きます。)

理事・評議員・監事のご紹介

代表理事	長瀬玲二	評議員	朝倉研二	監事	加瀬野忠吉
理事	谷一尚	評議員	白井洋輔	監事	寺坂幸治
理事	黒住章子	評議員	高次秀明		
理事	松田正己	評議員	原憲一		
理事	横山拓二				

※令和8年3月現在
(五十音順)

収蔵品概要と建物のご紹介

実業家でありながら、古美術を愛好した、故林原一郎が収集した刀剣・甲冑・陶磁器、岡山藩主池田家旧蔵の能面・能装束・絵画・書跡・蒔絵工芸品など、国宝3件・重文26件を含む約9,000件を収蔵しています。本館は、世界的建築家ル・コルビュジェに師事した日本を代表する前川國男氏の設計により、純日本のな長屋門・土蔵・茶室・庭園とマッチし、ゆったりとした時間の流れを感じられます。また、ミシラン・グリーンガイドで、当館全体として(★)、重要文化財「洛中洛外図屏風」(★★★)や能装束(★)の3件が掲載されています。

「友の会」募集のご案内

- 会員の種類・年会費
 - 【1年】(新規) 3,000円 (継続) 2,700円
(10月以降入会) 1,500円
 - 【3年】 7,200円
 - 【1年】(新規) 30,000円 (継続) 27,000円
(10月以降入会) 15,000円
 - 【3年】 72,000円
- 有効期限
 - 1年会員 令和8年4月1日～令和9年3月31日
 - 3年会員 令和8年4月1日～令和11年3月31日
- 会員の特典
 - ① 入館料無料または割引料金
 - ② 企画展(ご本人と同伴者1名様 無料)
 - ③ 特別展(ご本人と同伴者1名様 割引料金)
 - ④ 展覧会・イベント(ご本人と同伴者の送付)
 - ⑤ 林原美術館NEWSのお届け
 - ⑥ イベントへの割引料金(一部対象外)のご案内
 - ⑦ 貸館の優待
 - ⑧ スタンプラリーで当館関連グッズをプレゼント
 - ⑨ ミュージアムグッズを割引価格で販売(一部対象外)
 - ⑩ 喫茶コーナーのお飲み物を割引価格で販売(一部対象外)
 - ⑪ 会員様を含む、5名様以上のグループであれば、学芸員による特別解説を実施(要予約)

ご入会の申し込みおよび詳細は、美術館スタッフまでお尋ねください。

臨時休館等のお知らせ 自然災害の発生や悪天候により、事前の告知なく、開館時間の短縮や臨時休館する場合があります。臨時休館等の条件は当館ホームページをご覧ください。なお、緊急のお知らせは各種SNSなどでも発信しておりますので、ご確認ください。

〒700-0823 岡山市北区丸の内二一七-一五
一般財団法人 林原美術館

TEL 086-233-1733
FAX 086-233-1089
https://www.hayashibara-museumofart.jp/
@hayashibara.moa @hayashibara1964